

The *Ancrene Wisse* , 第四章 , Temptation–‘Uttre temptatiun’ :
説教の語り口 , 修辞法 , 構成法等に言及した試論 (第 4 編)

貝 原 洋 二

The *Ancrene Wisse* 4. Temptation–‘Uttre temptatiun’ : An Essay on Speech, Rhetoric and
Composition of his Preaching (4th series)

Yoji KAIHARA

The author, ‘I’ intends, in this paper, to analyze and describe a preacher’s way of his sermon with special reference to his speech, rhetoric and composition in the fourth chapter of the *Ancrene Wisse* through my own reading of the text according to my hitherto scheme of research of the work.

I have already written three papers on the same theme in the Journal of Kinki Welfare University.

This present paper is, therefore, done as the same successive one of them as the preceding ones.

Its composition is roughly divided into two parts whose early one from pp.101 : 18 to 108 : 7 chiefly dealing with the theme on the Deadly Seven Sins in detail, especially, referring more, firstly, to ‘*De liun of prude*’, namely, ‘The lion of pride’ and lastly, to ‘*De scoriun of lechery*’, namely, ‘The Scorpion of lewd and lust.’ The latter one is written, firstly, from pp.108 : 8 to 112 : 24 on such sins, and their master and how they serve to him in the fiend’s court, and secondly from pp.112 : 25 to 114 : 2 on how a nun should endure and so much be ‘hardened’ that she could overcome all the pains before she can get to the happiness of the heavens. and lastly, on two divisins of the temptation one of which is named ‘outer’ one, and the other. ‘inner.’ Besides they are each dealed into two; ‘light’ and ‘dark’ ones, the latter of which the preacher gives more fuller accounts than the other for the reason that ‘My foe waits me with treachery.’ implying ‘this temptation allures not fleshly but spiritually.

Key words : seven deadly sins, inner temptation, pride, lechery,
七大原罪 , 内的誘惑 , 傲慢心 , 性的淫乱

序

今回書いた小論は過去 3 回に亘って『近畿福祉大学紀要』, 第 1 巻, 第 1 号, 2000, 第 2 巻, 第 1 号, 2001, 第 3 巻, 第 1 号, 2002 に於いて書いて来た一連の論考の最新篇, 第 4 篇, に該当する。各小論は上記テキストの頁を追って同一の主題の元に, 同一の研究の基礎の上に乗って, 同一の方式で書かれたもの

である。筆者がどのような意図, 目的, 考え方, 計画に基いてこの一連の試論を書き続けているかは上記紀要の第 1 巻, 第 1 号の冒頭にその概要が示されているが, 改めてこの場に於いて要点のみを繰り返し述べると, 上記作品, 『尼僧の戒律』(The *Ancrene Wisse*, C. 1230) の原作品を筆者なりに精読を繰り返し, その長年の読みを通してそこに盛られた内容を説教の形をとった宗教的文学作品として考え, 説教者がその作品

受付 平成 15 年 10 月 8 日, 受理 平成 15 年 11 月 4 日
近畿福祉大学 〒679 2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡 1966 5

の中で説く趣意をその説教者の説教の仕方、方法の中で把え、その言、スピーチを分析することによって説教者が自らの説教の目的、意図を言語表現的に如何なる説教方法に基いて説教をしているかを試論的に考察しようとしたものである。

今回の小論で考察したテキストの範囲は前回のその続篇として書かれている。前回の小論はテキスト(102:18)まで論じられたので今回の場合はその続きから始まる。

本 論

(102:18 - 103:20)は、'De liun of prude haueð swi ðe monie hwelpes, ant ich chulle nempni summe'でこの'De liun of prude'の説教は始まって、その'hwelpes'に就いてその中の十匹を取り挙げ、その一つ一つに就いて40語余りで多くは説教を為しているが、'De þridde hwelp is ypocresis. þe makeð hire betere þen ha is.'と'þe eahtuðe is inpatience. þis hwelp fet þe nis þolemod aßein alle wohes ⁊ in alle ueeles.'は簡潔に為されているがこれでは語義レベルであろう。この十匹の各々に就いての比喩的説教は(102:18)で一応終る、と考えたい。そして'In þis unþeaw is upbrud. ⁊ edwitunge... ⁊ fet hire wode hwelpes inwið hire breoste.'迄は'De liun of prude'のまとめとなつていよう。こゝではどの様な行動とか発言が傲慢になるか具体的に述べられる。傲慢な言葉とか態度、行動が相手に対する軽蔑心から来ている、虚偽と悪臭に満ち、しばしば尼僧の間である事、それに気づかないで神に愛の歌とか祈りを捧げても神にとっては悪臭しか感じられない。傲慢の子供は全て迷信(supersticiun), 表面的繕い、騙し(semblanz) 罪(sines)で育てられる、と説いた後にその具体的行動、態度を'as beoren on heh þ heaued... sitten oðer gan stif as ha istaket were'に於いて数多く例証しつつ説教を進める。そしてその直ぐ後にそれと対照的に簡潔な文章'luee lokin o mon... ⁊ wlispin for þen anes.'が続くが直ぐ再び説教は上記の主題のもとにこう言った行動、態度は次の様な具体的行為からも同じく傲慢に至ると言つて、その一つ一つを取り挙げる。ここでは上辺を繕う事が取り挙げられる(Her to falleð of... wið were fingres.)それに続いてまとめ、総括的に最後に'Monie oþre þer beoð þe... of wlite. of strengðe.'と言つてその様な具体的傲慢な行為、態度がどんな心から生じるかその根元を述べて終る。その具体的行為は個別的に羅列的に提示され、大きい根元として述べられ、その直後にその中の'Of heh cun'を取り上げ、それから傲慢、聖なる悪

徳(hali þeawes)が生まれると締めている。'monie ma hwelpes þen... on a word. tene oðer tweolue'と'Hwa se eauer haueð eani unþeaw of... ⁊ fet hire wode hwelpes inwið hire breoste.'は自分のこの説教の趣旨をより効果的に実行して貰う為に今後何らすべきかと、その根拠を述べていよう。

分かり易くまとめる為、この最も重要視すべき'De liun of prude'の'hwelpes'に就いては詳しく、丁寧にまとめてみたので長くなり、本論と重複している文章表現もあると思う。

次に第二番目に挙げられた'De neddre of onde'の説教は第一のそれよりは約半分で終る。説教者はこれは7匹の子供を持って言っているが実際は10匹の子供が拳がっている。殆んどその説教の中では簡潔な定義で終えている。その中の第一に挙がる'Ingratitudo'と第八番目に出てくる'suspitio'は詳しい。第一の子供は103:22-29に亘る。忘恩の不徳、人間が行う施しのみならず、神の行なう恩賜をも軽視又は無視する態度、行ないがそれであり、それは神が最も嫌い(laðest)そして最も神の御心に叛く(meast aßein his grace)と説く。60語程を使う。第八番目の子供は'suspitio'.これには約120語程を使って説いている。確固たる証拠もなくして人を疑う。又はこれに外見似た行為、そしてそれをする目的は人を怒らせたり、軽蔑したり、害を加える事であつてその根本には虚偽の心があり、それは神が強く禁じている心である。彼女は私を愛しておらず、従つて私を訴える、二人、三人、それ以上のあなた方に、一緒に座っている場所で、それを悪意で以つてやる。そんな考えの為に又しばしば我には騙されることがある。善い事柄で外見悪くみえる事もあるからです。それ故に人間による善し悪しの判断はいつも虚偽です。新たな些細な虚偽でも、堂々とした立派なそれでも全て同じく悪意から出ているのです。以上が'suspitio'の説教の詳しい内容、語り口である。悪意を以つて、確固たる根拠も無いのに疑いを意図的に相手に対して有ち、それによって人を害する心、それは全て虚偽、偽りの心からその行為の程度、性質に拘らず発しているのです、と説く。

第三番目に登場する'De Vnicorne of wreaððe'も第二番目のその約1/2量の説教を為して約150語位で終えている。怒りから起こる悪徳に就いて簡潔な常識的定義に当たっている。6匹と言っているが実際には説教の中に於いて7匹が拳がっている。第二匹目の'wodschipe'は怒り狂った相手の表情を以つて怒りを説明するがその性質に就いて'wel ut of hire

witt' と説く。第七匹目に来る子供, 怒りの為悪い事をしてもし良い事はしない態度に就いてはそれに該当する行為の具体例を示し, それは自分自身を殺す事になると結論している (þeos is homicide ⁊ morðre of hire seoluen)。

第四番目に登場する悪徳は 'Þe Beore of heui slawðe' でそれが持つ子供は八匹でその悪徳に就いて簡潔に説いている。神に頼って自分の努力を惜しむ事, 臆病, 善い事を為す勇気を欠く事, 思慮を欠く言動, 世俗物の喪失を悲しむ心, 希望を失なう事等がその内容であるが特に希望を失う事を最も恐るべき (grimmest) と結論している。

第五番目は貧欲心 'Vox of gisceunge' の説教である。初めに, 12種程のその具体的名前を挙げる。中では 'Monslah't 殺人の例も挙げられるが概ね, 騙し, 嫉み, 盗み, 利子付貸付, 吝根性と言った貧欲に関りのある悪徳心とそれに基く行為が述べられる。その次に貧欲の本質が孤り諭えられて語られそれが人の将来に亘り人を支配してしまう原罪の一つであると説いてからそれとは対称的に身分に応じて世俗的利益を出来る限り得る事の少ない生き方が 'riht religiun' であると積極的に如何に生きるべきかの指導理念を説いている。

第六番目の悪徳に就いては説教は簡潔に, 約50語位いで終っている。'Þe suhe of giuernesse haueð gris þus inepnet.' という文章に続いて以下は 'To earliche hatte þ' an, þet oþer to esteliche. þ' þridde to frechliche....' の型の文章が第五まで続くがこの悪徳に就いては作者は 'Ich speoke scheortliche of ham. for nam ich nawt of dred mine leoue sustren leste ge ham feden' と言っている。

第七番目, þe Scorpiun of leccherie (淫乱) に就いては詳細に亘り, 700語余で比喩的・具体的に説いている。蠍, さそりに喩えた性の淫れの説教はその単語が言えて, 有害であるとよく知っておくべき子供達 (wundles) を一つ一つ名を挙げ, それらは肉的和心的の2通りがあって, 相互に助け合い, 様々な手口, 方法を駆使して, その一つ一つの具体的方法を挙げつゝ説教はその罪に陥らない様望む人はそう言った手管を避けて生きる必要性があります, と説く。その直後に聖アウグスティンの拉典語と意識がその根拠を示す。そしてさそりの子供にはその種族には入らない種もあるが人々がそれを知る事によって誘惑の機会を増し罪悪を更に知るといけないからそこ迄は言及をして行くが罪に冒された彼女はその悪徳についてよく考える様に勧める。その訳は後々も又目覚めて死に繋がる罪に陥ることもあると言う。若い時は驚くべき事をす

るがそれを罪と感じたら遅くならない中に完全に告白をしておきなさい, でないと地獄の業火に曝される, と言ってどんな些細な罪でもそれを直ちに告白し, 完全にその罪を拭い取っておく事の大切さを説教する。そして最後にこの見逃し易い罪悪のその特徴に就いて詳しく且つ具体的, 比喩的にさそりの持つ特性を根拠に淫乱の特質を述べる。その要旨はこの生物は巧妙で見かけは美しいので人は誘惑され易い, 然しその尾には毒の針があり, それで人を刺し殺す, 頭的美しさに惑わされずその周りもよく見て, その尾が何の様に人を刺すかを見極め, 刺されない中に早くそこから逃げなさい, の文章で長いこの第七番目に取り挙げられた淫乱の説教は終る。

次の説教の段落は, (108:10 - 109:14) の説教である。ここでは天國の王國エルサレムに向かう旅人と共に, 荒野にはその様な獣や爬虫類が居ます, それらは全て上述した7つの罪の彼らとその子等に連なっています(108:8 - 12)と述べて, 一例として 'Vnstea ðeluest bileaue aßein godes lane' を取り挙げ, 'nis hit te spece of prude inobedience?' と言って神の教えにぐらついて疑いを持った信仰は傲慢から来る不従順さの一種ではないですか, と説く。そして引き続き 'Herto falleð sygaldren... gef me wat hwuch sunne hit. is.' 'そこから生じる罪悪の具体的事例を挙げて, それ等が 'presumptio' と呼ばれる 'prude' の1種ではないですかと締めくくっている。説教は更に続いて次の様に進む。'gef me hit nawt. ... þ' ich slawðe cleopede.' (108:19 - 20) もしそのことに気付かなかつたら, 怠惰に因る不注意から来ていよう。以下は怠惰からくる罪悪に就いて具体的事例を列挙する (108:20 - 33)。そしてその様な行為は何の様な罪悪に該当するのかを反疑問文の形を使って相手にその罪悪性を分かり易い言葉でまとめている。つまり怠惰から来る行為がどの様な明確な罪悪行為に値するかを示し, その行為の罪悪性を指摘している。'Þe dronc drunch oðer ei þing dude... of galnes se. awakenet?'。貧欲に就いて説いて引き続きその罪悪性が如何なるものかを語る。

'Alle sunnen sunderliche bi hare nomeliche nomen... ⁊ seruið him in his court euch of þe meoster þe him to falleð' はそれまでの説教の内容を踏まえて, 七大原罪を獣とその子に喩え, 孤独の生活の荒野に彼等は住んでいて, 迷っている者全てを誘惑して殺してしまう, と説いて具体的にその獣と殺される相手を挙げている (Þe liun of prude sleað alle þe prude.... Wreaðfule: þe Vnicorne.) この段落の最後のまとめとして; 'Alswa of þe oþre o rawe.... euch of þe meoster þe him to falle

ð. ', 一連の他のものも皆同じです。彼らは神に対しては殺されている。然し悪魔に対しては生きていて全く彼の手中に在って、彼の宮廷に於いて彼に帰する仕事 (meoster) の1つ1つについて彼に奉仕している、とまとめている。

作者は七大原罪に就いて再び109:15以下で説教を始める。最初に取り挙げる 'prude' に就いては 'Þe prude beoð his þemeres... to schawin hare orhel.' と説いて世間のお世辞を吸い込んでそれを更に増幅させて吐き出す、正に悪魔の子供として 'priude', 傲慢さの本質を述べる。そしてそれに対照させて神の子供の場合を取り挙げる。 'ah Ʒef ha wel þohten of godes bemeres... for luue of hereword seið as ich seide.' (109:18-26) がその説教の部分である。世間の自分に対してのお世辞を神の前に提出してその審判を受ける事を勧める。そこでは傲慢さは必ず厳しい審判を受ける、と説いて、その根拠を 'Of þeose bemeres seið Ieremie... seið as ich seide.' の説教で聖エレミヤに求めている。

第二番目に登場するのが 'iuglurs', 恨みである。先ず始めに恨み心は顔の表情をしがめっ面にする喜び以外には知らず、その事は当然口や目にも及び、この仕事によって不幸な恨みは悪魔の宮廷に於いて彼らの恨み心に満ちた主を笑わせよう、と言って恨み心の働らき、それがどの様なものかを述べる (Summe iuglurs beoð þe... to bringen o lahtre hare ondfule lauerd) (109:27-31) この説教に続いてその後はその具体的場合を具体的に分かり易く説いている。その説教は 'Ʒef ei seið wel oðer deð wel: ... Ʒef hit is sumdel uuel þurh mare lastumge wrencheð hit to wurse.' (109:31-110:6) の文章で、その様な表情をとる際は彼ら自身の予言者達によって予め告げられ、その表情の仕方も教わる、とも説いている (þeos beoð forecwidderes hare ahne prophetes... þ ha biuoren hond leornið hare meoster to makien grim chere. (110:6-12))。

第三番目に挙げられる荒野の害獣は怒り (Þe wreaðfule) である。その説教は (Þe wreaðfule biuore þe feond skirmeð mid crimes... ant ealeliche ant keoruinde pinen.' (110:13-21) の部分である。怒りが持っている短剣と剣を振り回し、投げつける比喻で以って怒りの発する言葉の激しさを表現した説教の形をとっている。 'Ʒ he bodeð hu þe deoflen schulen wið him... þ beoð kene ant eateliche ant keoruinde pinen.' (110:17-21) は怒りが悪魔に彼と対決させて、その決闘の様子を具体的、リアルに述べた説教である。そして最後には、 'wið helle sweordes asneasen him þurh ut. þ beoð

kene ant eateliche ant keoruinde pinen.' 「地獄の剣で以って彼、怠惰を突き刺す。それは鋭く恐しい程で切り刻む痛みを伴う」と説教している。

第四番目に挙げられる害獣は怠惰 (slawe) である。怠惰は悪魔の膝の上で寝る愛しい子に喩えられる。それに対し悪魔は自分にとって都合の好い伝えたい事をその耳元に口を近づけて一切を熱心にしゃべる。怠惰はその教を快く受け入れる。何となれば悪魔の膝の上で寝る子は怠惰で注意力を欠いているからです、と説教をする。然しやがて運命の日に怠惰は、苦しみの内にイギリスのラッパの恐ろしい夢と共に起き上がり、地獄の悲惨さで以って永遠に目覚めたままにされよう、と言って説教は拉典語からの原文、 'Surgite aiunt mortui surgite Ʒ uenite ad iudicium saluatoris.' をその典拠として引用し、この説教は終る。「そうです、死者よ、起きなさい、起き上がり、こちらへ来て救世主の審判を受けなさい。」 (110:22-30)

次に挙げられる害獣は騙し 'Ʒiscere' である。これは、彼の 'eskibah' 特技(?) である、と言った後に、その具体的説教へと進む。 'Þe Ʒiscere is his eskibah. feareð abuten esken. Ʒ bisiliche stureð him to... as þes rikeneres doð þe habbeð muce to rikenin(110:31-111:2)。灰に就いて恐れる、全く価値の無いものに就いて恐れる、集める、多くを集める事に専念し、蒐集家の如くに集める、と価値の無い物を集める人々の愚かさを戒めている。 'Þis is al þe canges blisse Ʒ... Ʒ laheð þ he bersteð.' と行って、それは唯悪魔を喜ばせるだけの愚か者の幸福、al þe canges blisse、と表現している。説教者は、 'Wel understont euch wis mon þ... subter te sternetur tinea Ʒ operimentum tuum uermis' (111:3-12) の中で、金や銀、その他この世の中の全てのもは単なる土くれか灰に過ぎなくて人々を盲目にし、又傲慢にもする、と言う内容の説教を賢人の言葉として述べ、その後半部に於いては (Ant al þ he rukeleð Ʒ gedereð... Ʒ operimentum tuum uermis.) イザヤの言葉を拉典語で引用し、その根拠とし、聞き手に分かり易くその趣旨を説いている。その在世中に集めた財宝は、所詮は灰以上には必要な物ではなく、地獄に行った時に、ひき蛙とか蛇に化するであると言う説教文がその内容と説き方である。

第六番目に取り挙げられる害獣は 'Þe Ʒidere glutun' 貧欲な程までの飲食癖である。彼は悪魔の召使いであるがいつも貯蔵庫と台所に浸りっぱなしであると言う (þe feondes manciple. ah he stikeð eauer iceler oðer icuchene.) その有様に就いて以下に於いて具体的

に次の様に説いている。'his heorte is i þe dissches... ⁊ te deouel laheð.' (111 : 14 - 19). 正に世の常習的酒乱の不様さとか醜さの様子がリアルに描かれている。そして後半部の説教に於いて作者はラ典語の聖書の中からイザヤの言葉を引用して次の様にそれを戒めている。'þeose þreatið þus gedd þurh ysaie. Serui mei comedent ⁊ uos esurietis ⁊ cetera.' そしてその直後にそれを英訳し, 'Mine men schulen eoten ⁊ ow... world buten ende.' (人々は食べ, そしてあなた方も食べるが常にいつも空腹となるであろう。そこであなた方は永遠に食べ続ける事になるであろう)それに引き続いて 'Quantum glorificauit se ⁊ in deliciis fuit: fantum date illi tormentum ⁊ luctum. In apocalipsi. Contra unum poculum quod miscuit miscete ei duo.' と言う『黙示録』の原典が引用され, それは直ちに分かり易い英語に翻案される。'gef þe kealche cuppe wallinde bres to drinken... iþe apocalipse.' , まだ苦しみの酒が杯に溢れるばかりの量で喉にあるのに, 更にその倍の量の入った杯の苦しめの酒を飲む事を強要される, であろう。貧欲心は満たされる事はなく, 得れば得る程その欲求は募るであろうし, 従って苦しみは益々深まる, と言った説教が『イザヤ書』と『黙示録』からの引用を以って聞き手に分かり易い比喩的表現を使って効果的に説かれていると言えよう。前半部は描写的に具体的に登場人物に対して説教に適しい姿に仕立て、, その醜くさを悪魔がそれをみて笑う程にまで事細かく具体的に表現しているのに対し, 後半の説教ではラ典語の原文の内容が説く趣意を日常の分かり易い言葉によってより具体的に聞き手にとって実感を以って原文の意味が理解される様に語られている。

最後に台場する荒野に待ち構えている野獣は, 'þe lecchurs' 淫乱である。この第七番目に登場してくる荒野の野獣は以前大七罪原罪の中で一つ一つ取り挙げて説教をした場合(106 : 14 - 108 : 7)と同様, 最も多くの時間をかけて説教をしている(約260字)。他の原罪では約その半分か3分の1位である。説教はこの悪徳は自分自身のその悪徳性を全然その様には考えていないから淫乱とは別の名前を持ち, 悪魔の宮廷では(in þe deofles curt)大いにその振舞を欲しいまゝにしている, と始めに語る(þe lecchurs i þe deofles curt... hu ha mahen meast vilainie unrchen)。作者はこの淫乱の悪徳を以下の説教では悪臭に喩えて次の様な語り口でその説教は進行して行く。'þe lecchur i þe deofles curt bifuleð... þen he schulde wið eani swote rechles.' に於いて自分自身をその悪臭で汚染し又その仲間に対してもそうし, 自分の主人に対しても亦芳

香で喜ばせる以上にその悪臭の発散する息で楽しませる。(...stinkeð of þ þ fulðe ⁊ paieð wel his lauerd... þen he schulde wið eanie swote rechles.) と説いて, 悪臭で宮廷の全ての人間を汚染しよう 'bifuleð' としている。次に神に対してはどの様に悪臭を放つかに就いて次の様に述べている。'Hu he stinke to godd I vitas patrum þe engel hit schawde þe... þ he healp þe hali earmite to biburien.' 神も悪臭が漂い来る所では鼻を押さえて息を止めている(?)と, 'vitas patrum' に天使が書いているとも言っている。そして締めくゝりとして, その悪臭の強さとその効力に触れて言う。'Of alle oþre þenne haddeð þeos þe fuleste meoster... pinin ham wið eche stench iþe put of helle.' 悪臭の充満した宮廷に於ける汚染の度合は地獄の底穴に溜った全ての悪臭で以って彼らを苦しめる程度に迄強まるであろうと述べている。'NV gef haddeð one dale iherd... gef beoð ful feor from ham ure lauerd beo iþoncket.' はそれ以下に続ける説教の為に挿入的に語られた序文的性格が強い内容になっている。以下の説教内容は淫乱の説教では既に説かれて来たのであるが説教者は, こゝで改めてその恐ろしさに就いて聞き手に次の様に説いている。'ah þ þ fule breað of þis leaste unþeaw... Vre lauerd gefeow ow strengðe wel to wiðstonden.' こゝでは次の説教文は統語法上は主語のみで終わっている。つまり 'þ þ fule breað of þis leaste unþeaw... in to ower heortes neasse.' の文章である。悪魔はこの悪徳を至る処に播いて, それを吹き飛ばしているから, やがて何時かはあなた方の心の中に入って来る事を心配し, 恐れる, と言った要旨である。'Stench stiheð uppart ⁊... Vre lauerd gefeow ow strengðe wel to wiðstonden.' では更にその悪臭の性格, 性質, その加害性に就いて説いて注意を喚起させた後, 神の加護を祈った説教となっている(その悪臭は高く昇る, あなた方は高い処に登っている。そこでは誘惑の風はとても強い, だからどうか神があなた方にそれへの十分な抵抗力を授けられます事を願いたい)。

作者は以上の説教で七大原罪の各々の原罪の性格とその子供の性格を 'þe prude' から 'þe lecchurs' 迄, p109 : 15から p112 : 24迄に亘って約1,150語で語っている。その語り口は前述の如く寓意的であるが, そこでの説教は全体的に難解文が頻出している。その為筆者の解釈には不完全さと誤解が多くある事を恐れる。p.102 - 110も難解文が殆どであったので不十分な論考とならざるを得ない。文意, 構文共解釈に努力をしたが現段階の処での理解に基いている。

作者は次の段落, p.112 : 25 - 114 : 2 に於いては強

力な悪の誘惑に耐えて後に本当の休息、安らぎが来る事を繰り返し説く。以下に於いて先ずは原文に沿ってその説教の語りに、内容、説教の進め方等が分かる様に説教の流れに沿って文章を分析してみたい。

始まりの 'SVm weneð þ ha schule strongluket... þenne is al þ wa: iwurðe to wunne.' (112: 25 - 113: 13) に於いては次の様に説教は語られている。或る賢者と思われる人の言葉として次の文章が語られる。
'SVm weneð þ ha schule strongluket beon ifonet... i þe forme ȝeres nis bute balplohe to monie men of ordre.'
ここでは彼女が修道女としての生活を始めた最初の12ヶ月又はそれ以上の期間は誘惑の力は強力であるべきである。彼女が実際にそれを始めた時、数年後には誘惑を強いと感じ大いに迷い、神が彼女を見捨てたのではないかと疑い、恐れるが、然しそれはそうではないのである。多くの修道会の人間にとって最初の数年間は苦行 'balplone' 以外は無いのである、と言う。そしてその次に 'Ah neomeð ȝeme hu hit feareð bia forbisne.' と言ってそれがどの様に進行して行くかを予め喩えの形で示しておくからよく注意して聞いて下さい、と言う。その喩え話はその次から以下の様な内容で語られる。その文章は 'Hwen a wis mon neowliche haueð wif ilead ham:... þenne is al þ wa: iwurðe to wunne.' である。その内容は、或る賢明な男が新しく妻を娶とる。始めは彼は妻に対し寛大で優しく接する。やがて全ての点に於いて彼女が彼を心から愛していることを確認 'is umben' する。そして彼女の彼への愛情が真に確固たるものと理解した時、彼は真に確かに公然と彼女のそれ迄に犯した数々の無礼、非礼をし、彼がそれ迄それ等に気づいていないかの様に耐えて来たそれ等を、叱ることが出来よう。そしてもし彼の方へ彼女の愛を確実に引き寄せることが出来ないならば、それを修復する為に 'to forte fondin ȝetten' 彼は自からを彼女に対し厳しくし歯をむき出しに出して 'went te grimme toð' 叱る。最後に彼は彼女が十分躰けられ、'ha is al wel ituht.' 彼が彼女に対して為す如何なる事に対してもその為に彼を愛する事が減るのではなくて、益にそれ故に出来るだけ毎日に愛する事が多くなった時、彼は彼女に自分が彼女を優しく愛している事を示し、彼女の欲する全てを、彼がよく知っている人の様にして上げる、以上が説教者の語った説教の内容であり、説教の語り口である。語彙数にして約250語位である。'SVm weneð þ ha schule strongluket beon ifonet i þe forme tweofmoneð þ... I þe forme ȝeres nis bute balplone to monie men of ordre.' の説教文の文意を聞き手にその理由を理解させるのに適わしい分か

り易い喩えと言えよう。

作者は引き続いて以下の様な語り口の説教をする。その始まりから終わり迄の説教に就いて、その内容を前回と同じ方法で分析してみると以下の様にその説教は語られている。その全部の文章は 'ȝef iesu crist ower spus deð als wa bi ow mine leoue sustren.. þe muchele eise efter þe muchele meos eise þuncheð se swote. (113: 14 - 114: 2) である。始めに、'ȝef iesu crist ower spus deð als wa bi ow mine leoue sustren. ne þunche ow neauer wunder.' と語る(あなたの配偶者でありますイエス・キリストが同じ様な事をあなたに就いてしたとしても、決して疑ってはいけません)。次にその説教に入っていく、'I þe frumðe nis þer buten olhnunge forte drahen in luue... Efter þe spreoue on ende: þenne is þe muchele ioie.' 上述の彼がその妻に試みたと同じ方式で、最初は彼を愛の中に引き込む為に 'forte drahen in luue.' お世辞を専ら語り、やがて彼が自分によく馴染んだ頃と理解するや否や、その分だけ彼に対して許す度合を少なくしようとする。最後に 'spreoue' の後大いなる喜びがある、と言った内容の説教をする。その具体的場合として説教者は次の説教を始める。'Al o þis ilke wise þa he walde his folc leaden ut of... ȝ þer ha eoden drufot adrencte pharaon ȝ hare fan alle.' この説教は上述の彼とその妻の喩えでは彼が妻に対して始めは優しく接した説教に当る部分と考えたい。次に続く説教は以下の様な文章で始まる。'I þe desert forðre þa he hefde ilead ham feor i þe wildernesse... ȝ weorren muchele ȝ monie.' ここで説教は上述の彼のその妻の場合では彼が妻に対しそれ迄とは全く反対に厳しく当たる場合に匹敵しよう。そして説教者は最後のその結論として、'On ende he ȝef ham reste. ȝ alle weole ȝ... Terram fluentem lacte ȝ melle.' とる。この説教ではキリストが最初に 'his folc', 彼の民をどの様に導いたのかが旧約聖書、出エジプト記を下敷きにして説く事によって、キリストの愛の内容が分かり易い文章によって具体的、簡潔に語られる。そのまとめとして説教者はそれに続いて説く、'þus ure lauerd speareð on earst þe ȝunge ȝ te feble ȝ... þe muchele eise efter þe muchele meos eise þuncheð se swote.' この最後のまとめの説教でもキリストの愛の説き方は全く同じ順序によっている。'þus ure lauerd speareð on earst... ȝ draheð ham ut of þis world: swoteliche ȝ wið liste.' が初めに優しく導く場合、それに続く 'Sone se he sið ham heardin ... ȝ teacheð ham to fehten ȝ weane to þolien.' に於いては彼らを厳しく導く場合、最後に 'On ende efter long swinc: he ȝeueð ham swote reste... þe muchele eise efter

þe muchele meos eise þuncheð se swote. 'の説教に於いてイエス・キリストは彼らが天国に昇る前に於いて、苦難の後の休息が彼らにとって非常に良い 'god' ものである、そして大なる苦難の後の大なる安楽は非常に甘美である様に思われる。以上が第二番目に説かれる説教の内容と語り口である。説教の語彙数は初めのそれと略々同じ位である。

以上, p.112: 25 - 114: 2 の説教に引き続いて, p.114: 2 - 116: 29 に於いてはその誘惑の性質に基いた分類を行ない, その中でも最も警戒すべき悪魔の誘惑は外的誘惑 'þe uttre fondunge' よりは 'þe inre fondunge' の方であり, それらを更に下位区分し, 各々に於いて, 軽い 'liht' と強い 'strong' があって, 全体的には4種類に分類される。つまり, 軽くて, 気づきにくい誘惑 'fondunge, liht z dearme' と軽くて気づき易い誘惑 'fondunge, liht z openlich'. そしてもう一方の誘惑, 強く, 気づきにくい誘惑 'fondunge, strong z dearme' と, 強く気づき易い誘惑 'fondunge, strong z openlich' の4種類である。ここで気づき易い誘惑は概して肉的誘惑, 'fondunge fleschliche' の方であり, 一方気づきにくい誘惑は概ね内的精神的誘惑 'fondunge gasteliche' の方であると言っている。その根拠に作者は旧約聖書の持論, 'Salms' その他旧約の予言者からの言葉を愛用している。

以下に於いて上記頁の中で作者は何の様にこの主題, 誘惑を説いているかをその説教の流れを基底に置いて, 説教の言語, スピーチ, その論理, 説き方等に注目して分析的解説を試みてみたい。

始めに作者は誘惑 'fondunge' を次の様に述べて説教を始めている。'Nv beoð i þe sawter under þe twa temptatiuns þe ich ear seide þe beoð þe uttre. z te inre þe temeð alle þe oþre:' ここでは先方誘惑を大きく二つに分けて, 外的 'uttre' と内的 'inre' としていて, それらがその他の一切の誘惑を育てる '... þe temeð alle þe oþre:' と言う。その後引き続いてそれらを各々下位区分して 'fowr dalen todealet þus. Fondunge liht z dearme. Fondunge liht z openlich. Fondunge strong z dearme. fondunge strong z openlich as is þer understonden.' ここでは外的誘惑と内的誘惑の何れの誘惑にも軽い 'liht' と強い 'strong' の2通りがある。合計で4種類に分類される。そしてそれらに就いて説教者はその以下の説教で何れの誘惑にも触れたらその各々の誘惑に対する警戒を怠ることへの警告を発しつつ, その中で最も警戒すべき誘惑に就いて説教を進める。

'Of fondunge liht z dearme: seið iob þeose wordes... bi hwam he seið alswa lucebit post eum semita.' に於いて拉典語文を引用した後にそれを英語に解説的に訳をする中で説教を為す。ここで石の上に垂れ落ちる滴が石を砕く喩えをヨブの言葉から取って, そこで 'lihte dearme fondunge þe me nis war of: falsið a treowe heorte.' と言う。軽くて明るい方に就いても同じです, と言う。次に強い方の誘惑に就いて, 'Nis nawt se muche dute. of strong temptatiun þis is þah dearme is ec þ Iob meaneð... as þah þe wal were tobroken z te zeten opene.' と説いている。ここでヨブの言葉が引用された後に, 'Mine fan weiteð me wið... z nes hwa me hulne.' と裏切り者の喩えが用いられる。説教は更にイザヤの言葉を引用, 何れも拉典語原文を引用した直後にそれを説教に適した英語に訳している。ここでは 'Wa schal cumen us þe. z tu ne schalt witen hweone.' と素直に英語に訳している。第4番目の誘惑は, 'Of þe feorðe fondunge þ... as þah þe wal were tobroken z te zeten opene.' 中でもヨブの言葉をラ典語で引用し, それを英語 'þis is ha þreasten in up o me as þah þe wal were tobroken z te zeten opene.' している。明らかに攻め込んで来る威嚇を行った後で攻めて来る, その様な敵に喩えている。ここでその四つの誘惑の各々に就いての特徴を説いているが, 説教の力点は 'liht' の場合も 'strong' の場合も 'dearme' の方に言葉を多く費していることに気づく。そしてそのまとめとして, 'þe forme z te þridde fondunge of þeose fowre beoð al meast under þe inre' と説き, 'þe oþer z te feorðe falleð under þe uttre. z beoð al meast fleschliche z eð for þi to felen.', つまり第一と第三の誘惑は内に秘んでいて, 第二と第四は表面に出ていて且つ肉のりで, 気づき易い, と説いている。それに続いての説教はこの(114: 2)から終り迄の(116: 29)の説教の最大の目的の説教に移って行く。'Ðe oþre twa beoð gasteliche of gasteliche unþeawes. z...' 略々終り迄続く, 以下に於いてこの説教の本来の目的である上記の2つの説教に就いてその言語(スピーチ)と内容, 方法等気づいた点を述べてみたい。

始まりの言葉は上述した様に 'þe oþre twa beoð gasteliche of gasteliche unþeawes z... for þi þe mare to dreden', 他の2つは精神的な不徳であり, 隠されていることが多く気づきにくく, 与える害悪は最も強くてもいので, それ故により心しなければいけないのである, と言った内容で始まる。次に 'Moni þ ne weneð nawt bret in hire breoste sum liones hwelp. sum neddre cundel þe forfret þe sawle...' ものを考えない人は彼ら

の心の中にライオンの子供、蛇の子供を育てていて、それらは魂を触むのである。こゝまでは概括的、総論的且つ要旨、ポイントを初めに話した後にその誘惑の具体的働きかけの仕方を ‘*þe sweoke of helle*’ 地獄の悪魔を主人公に置いて長々とこの段落の終り (116 : 29) 迄語る。作者は上述の文章に続けて ‘*of hwucche Osee seið. Alieni comederunt robur eius ⁊ ipse nesceiuit*’ と Osee のラ典語を引用した直後に先ず英語に訳す ‘*Vnholde forfreten þe strengðe of his sawle ⁊ he hit nawt nuste...*’ がそれは次に続く説教の切り出しの言葉としての援用になっている。従って説教者の説教の目的は ‘... ⁊ he hit nawt nuste...’ の文章以下の全文に当る。その中を拙論に於いては論を進める場合の事を考慮して先ず ‘... ⁊ to leaden se heard lif ⁊ pinin swa þ̅ licome: þ̅ te sawle asteorue’ 迄を一段落としたい。そこでの説教の内容は以下の様な文章を以って語られる。全く善であり、魂の恵みであるものに近づいて罪を犯す、その回数は明らかな悪を以って為している時でも、自分のその強力な力が分からない位頻々そうするのである。然し彼は、いい私には彼女らに施しの行為をさせる事によって罪を犯させる事はしないかもしれないであろう。私は相撲取りの様に彼女をこっちの方へ向け、と言うのも彼女が最も恐れているから、投げ、更に彼女が気づかない内に遥かその底の方へ投げてから彼女を誘惑して大いに禁欲的節制的気持にならせ、その為に神への奉仕が出来なくなり、やがては厳しい苦行の生活に入り、魂が飢える程までに身体を傷める事になる。

以上が悪魔が秘かに近づいてその心を奪う初めにした説教の文章である。その内容は Osee が言った ‘*Alieni comederunt robur eius ⁊ ipse rescuiuit... ⁊ is þ̅ah sawle bone. ⁊ wel to deadlich sunne.*’ のこの第二番目の隠されて気づきにくい誘惑の仕方を具体的に悪魔がどの様に秘かに狡猾に近づいて来るかを分かり易い題材を使って ‘... ⁊ eggeð hire toward se muchel abstinence?... ⁊ pini swa þ̅ licome: þ̅ to sawle asteorue.’ に於いて説いている。その悪魔、‘*he*’ が語る文書の前半、‘*Na he seið ne mei ich nawt makien... ear ha least wene.*’ の説教の文章は悪魔がどの様に彼女を始めに誘惑してかかるのかが分かりにくいのが ‘... ⁊ eggeð hire toward se muchel abstinence...’ 以下の文章の前段的説明の為の説教文と解しておきたい。

それに続いて説教は、悪魔がもう1つの、それ以外では邪悪な人間を作ることが出来ないものを見るのである、と言う文章 ‘*He bihalt an oþer þ̅ he ne mei nanewis makien luðere iþonket...*’ で始まる以下の内

容の説教話を聞かせる。‘*se luueful. ⁊ se reowðful is heorte hire...*’ で始まる説教の内容の概要は、その心が優しく慈悲深い女性が悪魔に誘導され、やがては世俗化し財物への欲求が深まり、神への信仰心は薄らぎ物を集めそれを人へ施す事を始める。やがては尼僧から館の妻となり下る。彼女は多くの施しの故に有名となり、人から賛められ、お世辞を受け誇りを感じずる様になる。と言う内容の話をする。その後で説教者は以下の様な説教をしている。‘*Sum seið inohreaðe þ̅ ha gedereð hord. swa þ̅et... ne telle ge bute dweole. for nis hit bute his gile.*’ 或る人は丁度過不足なく言っている、彼女は財物を集めその結果彼女の家は、そして彼女自身にも盗人が入り、それらを奪ってしまった。悲しみの上にも又悲しい事である。この様にして地獄の裏切りは悪魔を ‘*treowe readesmon.*’ 真の忠告者にする。悪魔に身を委ねてはいけません。ダヴィデ王は彼を ‘*demonium meridianum*’ 昼間の輝きの悪魔と呼んでいる。聖パウロは ‘*angelum lucis*’ 光の天使と呼んでいる。と言うのも彼はしばしば彼をその様にして彼を多くの人々の前に姿をみせているから。その様な光景は眠りの中でも目が覚めている時でも見る事はありませんがそれはだましであると言う以外はありませぬ、と言うのもそれが彼のだまし方であるから。

上に引き続いてもう一つ、二人の聖者を悪魔がだます話をする。説教は以下の様な言葉の部分から始まっている。‘... he haueð wise men of hali ⁊ of heh lif ofte swa bichearret. as þ̅e þ̅... ⁊ swa feol in to unhoþe: ⁊ deide in heaued sunne.’ 双方の聖者に就いては ‘*as þ̅e þ̅ he com to i wummoneliche i þ̅e wildernesse seide ha wes igan o dweole as meos eise þ̅ing efter her bearhe.*’ と彼女に言わせる程にだました、と言った後に ‘*Ant te oþer hali mon þ̅ he makede ileuen þ̅... ⁊ deide in heaued sunne.*’, 悪魔は自分が天使であると言ってまず信用させた後で、あなたのお父さんは悪魔だから殺してしまいなさい、と説く。しかも悪魔はそれ迄に彼を最終的に悲劇的にだます積りでしばしば本当の事を言っていた、と言った話をして更に ‘*Alswa of þ̅e hali mon. þ̅... ⁊ deide in heaued sunne.*’ の説教でその聖者を悪魔が更にだます話をする。その要旨は彼の父の遺産を貧しい人々に施す様に勧め、彼はそれを余り長くやり続けた為に致命的な罪を女性に対して犯す結果となる。そして最後は失意の中に重い罪を負って死ぬる、と言う内容になっている。その話を聞かせた後で説教者はそこから以下の様な説教をしてこの段落、つまり隠された誘惑へ特に用心しないさい、と言う結論で終る。(114 : 2) から始まる悪魔の誘惑の4分類に基く説教は終

る。その始まりから終り迄の説教の全文は, 'Of mon þe spekeð wið ow þulliche talen. hereð. hu...: ich mei qð he alswa fallen to marhen.' (116: 14 - 29) の部分である。始めに, 'Of mon þe spekeð wið ow þulliche talen. hereð. hu ȝe schulen witen ow wið þes deofles wiltes: þ he ow ne bichearre.' と言って以下の様な話をする事によって如何にそれにだまされない様に備えたらよいかを説いている。その話の部分は, 'Sum of ow summchearre he made to leuen. þ...' 以下であるが, その中の前半では, 'Sum of ow sumchearre he made to leuen. þ... forte acwenchen chearite: þen rihtwisnesse.', 後半では 'Sum he is umben to maken se swiðe... oðer in to deop þoht swa þ ha dotie.' と言った内容の説教をする。前半の要旨は彼女が自分の行動を美しい言葉で以って語っても, それはだます為の言葉であると彼は言ってだまし, 慈悲の心をその然るべき程度を超えて消してしまおうとしたのである, と語る。又或る人には彼女が死ぬ程の悲しみ, 怠惰の罪に又は彼女が馬鹿げた行為をする程深い悲しみに落ち入るとして人の善意を彼は止めさせようともする。或る人は又次の様な罪に対して憎しみを有っている。つまり, 彼女が罪に落ち込んだ人を軽蔑している事に対してである。彼女はその人の為に悲しみ, それ故に自分自身の為にも大いに恐れ, 人が彼に彼の兄弟が罪に落ち込んだ話をした時に言った次の言葉の様に言うべきである。ああ彼は罪に落ち入る前に大いに誘惑を受けた, 彼が今日罪に落ち入る様に明日は私が罪に落ち入ることになるかもしれない。

以上が既に書いている様に (114: 2 - 116: 29) 迄の悪魔の誘惑をその特徴から分類して, その中でも特に秘かに気づかりない様に迫って来る誘惑に説教の力点が置かれ, 殆んどはその為に説教は為されていると言えよう。

結 論

七大原罪に就いての説教の中で説教者が最も力点を置いてその罪悪性を強調している原罪は傲慢さ, 'liun of prude' (102: 18 - 103: 21) と淫乱 'Scorpiun of leccherie' (106: 14 - 108: 7) であろう。前者に就いてはその10匹の子供を持たせ, その1匹1匹に就いて平均約40語で以って説教をして全説教では約700語位で語っている。後者もそれ位の語数で説教をしている。他は多くてもその半分, 悪意 'neddre of attrionde' の場合である。それに次いで多く語られているのが第三番目に登場してくる怒り 'Vnicorne of wreaððe' である。傲慢の語り口は具体的であって,

その原因は相手に対しての軽蔑心に起因する。その心があってもそれに気づかずに神に愛の歌とか祈りを捧げても神にとっては悪臭以外の何物でもない, と厳しく戒めている。そしてそれが育つ土壤は迷信, 表面的繕い, 騙し, その他数々の罪であると言っている。そして具体的にその場合を10匹の子供として喩えてその特質を語っている。後者の場合も同じ分量で説いている。その子供達を1匹1匹挙げ, それらを肉の場合と精神的な場合に分類し, 且つその相互の關係に迄及ぶ。この説教は一連の説教中で白眉のものと思われる。その結論の言葉, 見かけが巧妙で, 美しいから誘惑され易いが, その尾には毒の針がある。それは人を殺すから頭の高さに惑わされること無く, その周囲をよく見て早くそこから逃げる事のみを考え, この悪徳にはもう近寄らないことが先決です, と言う。

(109: 15 - 112: 24) に於いても七大原罪に就いての説教をするがこゝでは上述の説教程の具体性と分かり易さは無い。イエルサレムへ向かう巡礼の旅人が荒野で出会う野生の獣に喩えての説教である。'Prude' 傲慢心は神への不信から生じ, 'iuglurs' 恨み心の説教では人の顔の表情からその意味を説き, 怒り 'Wreaðe' は刀を振り回す悪魔の喩えで, 怠惰 'Slawe' では悪魔の膝の上で眠るその子供に喩え, 人がやがてその苦しみに気づく時には神の審判を受けるべきである, と説く。騙しの罪 'ȝiscere' では灰の様なつまらないものを集める, つまり世俗っぽい財物を騙されて集める人に喩え, そんな物は軽蔑すべき物とする事を勧める。第六番目には貪欲心を貪欲な迄にも旺盛な飲食への欲望に喩え, それは満足に至らず益々苦しむと言う。最後に淫乱 'Lecchurs' を取り挙げ最も詳しく説く。これは悪臭に喩えられる。それは強くていつ迄も残り, 広い範囲に拡散し空高く迄上って行き, 高い処, 高い世界に居るあなた方の処へも上って来ます。その余りにも強く激しい悪臭の故に神も鼻を押さえます。それは又地獄の底へ溜った全ての悪臭に迄及んで, 彼らを苦しめる程である, と説いている。

その後の説教は趣が変わりそのまとめ, 総論的語り口になって行く。(112: 25 - 114: 2) に於いては強力な悪の誘惑に強く耐えてこそ真に本当の休息と安楽を得る事が出来る。説教を, 修道生活に入った尼僧がその苦しい生活の故に神の加護を疑って初めの数年間を過ごす, その後でやがて幸福がもたらされる様子を賢明な男がその妻を真に愛させる為に優しさと厳しさを巧みに使い分けた喩えをイエスの愛の説教をする場合に引用して寓意化する事によって効果的に説いている。

(114 : 2 - 116 : 29) では誘惑の内容とその強羽との関連の中で、誘惑には肉的なものと精神的なものとの2種類がある。そして各々には強いものと弱いものがある。その中で最も恐ろしい誘惑は気づきにくく心に深く蝕み住む誘惑 ‘Fondunge liht ꝛ dearme’ であろうとし、その具体的説明を悪魔を輝ける天使に仕立て又優しく対応して相手を信用させた後にその父親を騙して殺させて益々深みに入って行く息子に喩えた後、最後に拉典文から ‘Ille hodie ego eras’ を引用し、それを英訳して締めくくりに言葉としている、「彼は今日であったが、明日は私の番だ」。

簡潔に要約してみる時、まずは説教者のその説教方法の巧妙さ、具体的で適切な例示を喩えに説教の内容

を伝えそれに多くを費し乍らもその内容によっては力点を置いて説教を行なう、そしてその原因は人々が日頃十分それに対する備えがない事、その対策は誘惑に対して苦しくても騙されない様それに強く耐える、その度合が強い程天国の幸せ、神、キリストの愛を多く受けるであろうと結んでいる。

使用したテキストは前号と同じ、The English Text of the Ancrene Riwe. Ancrene Wisse. edited from Ms. Corpus Christi College Cambridge 402 by J. R. R. Tolkien (:) 内に示した数字は上記テキストの頁：行の数字である。

本論の論考は今後も続いて同一主題の元に為される予定である。

itemptet. Þe fiftē hwelp hatte inobedience. nawt ane þe ne buheð. oðer gruchinde deð. oðer targeð to longe. þet child þe ne buheð ealdren. Vnderling his prelat. parosch ien his preost. Meiden hire dame. Euch lahre his herre. Þe seste is loquacite. þe fedeð þis hwelp þe is of mucche speche. ȝelpeð. demeð oþre. likeð oðerhwile. gabbeð. upbreideð. chí deð. fikeleð. stureð lahtre. Þe Seoueðe is blasphemie. þis hwelpes nurrice is. þe swereð greate aþes oðer bitterliche curseð. oðer misseið bi godd oðer bi his halhen. for ei þing þ he þoleð. sið oðer hereð. Þe eahtuðe is inpatience. þis hwelp fet þe nis þolemod aȝein alle wohes ⁊ in alle uue les. Þe Niheðe is contumace. ant þis fet hwa se is anewil i þing þ ha haueð undernume to donne. beo hit god beo hit uuel. þ na wisure read ne mei bringen hire ut of hire riote. þe teoheðe is Contentio. þ is strif to ouercumen þ te oþer punche underneoden awarpen ⁊ crauant. ant heo me(i)stre of þe mot. ⁊ crenge ase champiun þe haueð biȝete þe place. I þis unþeaw is upbrud. ⁊ edwitunge of al þ uuel þ ha mei bi þe oðer ofþenchen. ant eauer se hit biteð bittru re. se hire likeð betere. þah hit were of þing þe wes biuore ȝare amendet. Her imong beoð oðerhwiles nawt ane bittre wordes. ah beoð fule stinkinde scheomelese ⁊ schent fule. sum chearre mid great sware. monie ⁊ prude wordes wið warinesses ⁊ bileasunges. Her to falleð euenunge of ham seolf. of hare cun. of sahe oðer of dede. Þis is among nun nen. ⁊ gað wið swuch muð seoððen ear schrift ham hadde iweschen to herie godd wið loftsong. oðer biddeð him pri uee bonen. Me þinges amansede nuten ha þ hare song ant hare bonen to godd stinckede fulre to him ⁊ to alle his halh en. þen ei rotet dogge. Þe ealloeftē hwelp is ifed wið supersti ciuns. wið semblanz ⁊ wið sínes. as beoren on heh þ heaued. crenge wið swire. lokin o siden. bihalden on hokere. winche

(102:1 32)

mid ehe. binde seode mid te muð. wið hond oðer wið hea ued makie scuter signe. warpe schonke ouer schenich. sitten oðer gan stif as ha istaket wére. luue lokin o mon. speo ken as an innocent. ⁊ wispin for þen anes. Her to falleð of ueil of heaued clað. of euch oðer clað. to ouegart ace munge oðer in heowunge. oðer ipinchunge. gurdlesant gurdunge o dameiseles wise. sleaterunge mid smirles fule fluðrunge. heowin hér. litien leor. pinchin bruhen oðer bencin ham uppant wið wéte fingres. Monie oþre þer beoð þe cumeð of weole of wunne. of heh cun. of fei er clað. of wit. of wlite. of strengðe. Of heh cun waxeð prude. ⁊ of hali þeawes. monie ma hwelpes þen ich hadde inempnet. haueð þe liun of prude. ah abute þeose studieð wel swiðe. for ich ga lihtliche ouer. ne do bute nempni ham ah ȝe eauer ihwer se ich ga swiðere uorð. leaueð þer lengest. for þer ich feðeri on a word tene oðer tweolue. Hwa se eauer haueð eani unþeaw of þeo þe ich her nempnede. oðer ham iliche. ha haueð prude sikerliche hu se eauer hire curtel beo ischapet oðer iheowet. heo is þe líunes make þ ich hadde ispeken of. ⁊ fet hire wode hwelpes

Þe neddre of attri onde **¶** inwið hire breoste. haueð seoue hwelpes. Ingratitudo. þis cundel bret hwa se nis icnawen goddede. ah teleð lutel þrof. oðer forȝet mid alle. goddede ich segge nawt ane þ (mon) deð him. ah þ godd deð him. oðer haueð idon him. oðer him oðer hire. mare þen ha understont ȝef ha

hire wel biþohte. Of þis unþeaw me nimeð to (lutel) ȝeme. ⁊ is þah of alle an laðest godd ⁊ meast aȝein his grace. Þe oðer cundel is Rancor siue odium. þ is heatun ge oðer great heorte. Þe bret hit i breoste. al is attri to godd þ he eauer wurcheð. Þe þridde cundel is ofþun chunge of oþres god. Þe feorðe. ȝleadships of his uuel. Þe fiftē wreiuenge. Þe Seste bacbitunge. Þe Seoueðe up

(103:1 33)

brud oðer scarnunge. Þe eahtuðe is suspitio. þ is mis ortrowunge bi mon oðer bi wummon wið uten witer taene. þenchen. þis semblant ha makeð. þis ha seið oðer deð me forte gremien. hokerin oðer hearmin. ⁊ þ hwen þe oþer neauer þideward ne þencheð. Herto falleð fals dom þ godd forbeot swiðe. as þenchen oðer seggen. ȝe ne luueð ha me nawt. Herof ha wreide me. lo nu ha spokeð of me þe twa. þe preo. oðer þe ma þe sitteð togederes. swuch ha is ⁊ swuch ⁊ for uuel ha hit dude. Ipulli þoht we beoð ofte bichearret. for ofte is god þ puncheð uuel. ⁊ for þi beoð aldei monnes domes false. Herto limpeð alswa luðe re neowe fundles ⁊ leasunges ladliche þurh nið ⁊ þurh onde. Þe Niheðe cundel is sawunge of unsibsumnesse of wreaððe ⁊ of descorde. þeo þe saweð þis deofles sed. ha is of godd amanset. Þe teoheðe is luðer stilðe. þe deofles silence. þ te an nule for onde spoken o þe oþer. ant þis spece is al swa cundel of wreaððe. for hare teames beoð imengt ofte to gederes. Hwer as ei of þeos wes. þer wes þe cundel oðer þe alde moder of þe attri neddre of onde.

Þe Vnicorne of wreaððe þe bereð on his nease þe þorn þ he asneaseð wið al þ he areacheð. haueð six hwel pes. Þe earste is chast oðer strif. Þe oðer is widschipe. Biwald te ehnen ⁊ te neb hwen wod wreaððe is imunt. Biwald hire contenemenz. loke on hire lates. herene hupe muð geað. ⁊ tu maht demen hire wel ut of hire witte. Þe þridde is schentful upbrud. Þe feorðe is wariunge. Þe fiftē is dunt. Þe seste is wil þ him uuel tidde. oðer on him seolf. oðer on his freond. oðer on his ahte. Þe seoueðe hwelp is. don for wreaððe mis. oðer leauen wel to don. forgan mete oðer drunch. wreoken hi re wið teares ȝef ha elles ne mei. ⁊ wið weariunges hire heaued spillen o grome. oðer on oþer wise hearmin

(104:1 32)

hire i sawle ⁊ i bodi baðe. þeos is homicide ⁊ morðre of hire seoluen. Þe Beore of heui slawðe haueð þeose hwelpes. Torpor is þe forme. þ is wlech heorte. vnlust to eni þing. þe schulde leitin al o lei i luue of ure lauere. Þe oþer is pusillanimitas. þ is to poure heorte ⁊ to earh mid alle ei heh þing to underneomen in hope of godes help. ant i trust on his grace. nawt of hire strengðe. Þe þridde is cordis grauitas. þis haueð hwa se wurcheð god. ⁊ deð hit tah mid a dead ⁊ mid an heui heorte. Þe feorðe is ydelnesse hwa se stut mid alle. Þe fiftē is heorte grucchunge. Þe seste is a dead sorhe for lure of ei worltlich þing. oþer for eni unþonc bute for sunne ane. Þe Seoueðe is ȝemelesschi pe oðer to seggen oðer to don. oðer to biseon biuoren. oðer to þenchen efter. oðer to miswiten eni þing þ ha

haueð to zemen. Þe eahtuðe is unhope. þis leaste beore hwelp is grimmet of alle. for hit to cheoweð ⁊ tofret go des milde milce ⁊ his muchele mearci. ⁊ his unimete grace.

Þe Vox of zisceunge haueð þeose hwelpes. Tricherie. ⁊ gile. Þeofðe. Reaflac. wite. ⁊ herrure strengðe. false witnesses oðer að. dearne symonie. Gael. Oker. festschipe. prinschipe of zeoue oðer of lane. þis is icluht heorte. vnþeaw gode laðest. þe zef us al him seoluen. Monslaht oðerhwise. Þis vnþeaw is to uox for moni reisun ieuuen et. Twa ich chulle seggen. Muche gile is i vox. ⁊ swa is i zisceunge of wortlich biȝete. An oðer. þe Vox awuri eð al a floc þah he ne mahe buten an frechli che swolhen. Alswa zisceoð aȝiscere þ tet moni þusent mahten bi flutten. ah þah his heorte berste. ne mei he bruken on him seolf bute a monnes dale. Al þ mon wilneð mare oðer wummon. þen ha mei rihtliche leade þ lif bi. euch efter þ ha is. al is zisceunge

(105 : 1 31)

⁊ rote of deadlich sunne. þ is riht religiun þ euch efter his stat borhi ed tis frakele worlde se lutel se ha least mei. of mete. of clað. of ahte. of alle hire þinges. Notið þ ich segge. Euch efter his stat. for þ word is ifeðeret. ze mote makien þ wite ze i moni word muche strengðe. þenchen longe þerabuten. ⁊ bi þ ilke an word under stonden monie þe limpeð þer to. for zef ich schulde writen al. hwenne come ich to ende ?

Þe Suhe of ziuernesne haueð gris inempnet. To earliche hatte þ an. þet oper to esteliche. þ pridde to frechliche. þ feorðe hatte to muche. þ fifte to ofte. I drunch mare þen i mete beoð þeos gris iferhet. Ich speoke scheortliche of ham. for nam ich nawt ofdred mine leoue sustren

Þe Scorpium of leccherie. þ is .C. leste ze ham feden. of galnesse. haueð swucche cundles. þ in a wel itohe muð hare summes nome ne sit nawt forte nempnín. for þe nome ane mahte hurten alle wel itohene earen. ⁊ sulen cleane heorten. þeo þah me mei nempnín wel. hwas nomen me icnaweð wel. ⁊ beoð mare hearm is to monie al to cuðe. Horedom. Eawbruche. Meiðlure. ⁊ Incest. þ is bituhe sibbe fleshliche oðer gasteliche. þ is o feole i dealet. ful wil to þ fulðe wið skiles zettunge. helpen oper piderward. beo weote ⁊ witnesses prof. hunti þrefter wið wohunge. wið toggunge. oðer wið eni tollunge. wið gigge lahtre. hore ehe. Eanie lihte lates. wið zeoue. wið tollinde word. oðer wið luue speche. Cos. Vnhende grap unge þ mei beon heaued sunne. luuie tide oðer stude forte cumen i swuch keast. ⁊ opere foreridles þe me mot ne

de forbuhen. þe i þe muchele fulðe nule fenniliche fallen. as seint austín seið. Omissis occasionibus que solent adi tum aperire peccatis. potest consciencia esse incolimis. þ is.

hwa se
(106 : 1 31)

wule hire inwit witen hal ⁊ fere. ha mot fleon þe foreridles þe weren iwunet ofte to openín þe ingong ⁊ leoten in sunne. Ich ne dear nempnín þe uncundeliche cundles of þis deofles scorpium attri iteilet. Ah sari mei ha beon þe bute fere oðer wið. haueð swa ifed cundel of

hire galnesse. þ ich ne mei spoken of for scheome ne ne dear for drede. leste sum leorni mare uuel þen ha con ⁊ beo þrof itemptet. Ah þenche on hire ahne awea riede fundles in hire galnesse. for hu se hit eauer is icwenet wakinde ⁊ willes wið flesches licunge bute ane i wedlac. hit geað to deadlich sunne. I zeuðe me deð wundres. Culche hit i schrift ut utterliche as ha hit dude. þe feleð hire schuldi oðer ha is idemet þurh þ fule brune cwench. to þ eche brune of helle. Þe Scorpium nes cundel þe ha bret in hire bosum. schake hit ut wið schrift ⁊ wið deadbote slea. ze þe of swucches nute nawt. ne þurue ze nawt wundrin ow ne þenchen hwet ich meane. ah zeldeð graces godd þ ze swuch unclean nesse nabbeð ifonet. ⁊ habbeð reowðe of ham þe i swuch beoð ifallen. **I**Noh is etscene hwi ich hadde i euenet prude to liun. onde to neddre. ⁊ of þeo alle þe opere. wið ute þis leaste. þ is hwi galnesse beo to scorpium un ieuuenet. Ah lo her þe skile þrof sutel ⁊ etscene. Scorpium is a cunnes wurm. þe haueð neb as me seið sumdeal ilich wummon. ⁊ neddre is bihinden. Makeð fei er semblant. ⁊ fikeð mid te heaued. ⁊ stingeð mid te teile. þis is leccherie. þis is þe deofles beast þ he leat to cheþinge. ⁊ to euch gederunge. ⁊ chepeð forte sullen. ⁊ biswikeð monie. þurh þ ha ne bihaldeð nawt bute þe feire neb. oðer þ feire heaued. þ heaued is þe biginnunge of galnesse sunne. ⁊ te licunge hwil hit least þe þuncheð swiðe swote. Þe teil þ is þe ende þrof. is sar ofpunchunge. ⁊ stingeð her wið atter of bitter bireowsunge. ⁊ of deadbote. ant selili che mahen ha seggen þe þe teil swuch ifindeð. for þ atter ageað. ah zef hit ne suheð her. þe teil ⁊ te attri ende is þe

(107 : 1 35)

eche pine of helle. Ant nis he fol chapmon þe hwen he wule buggen hors oðer oxe. zef he nule bihalden bute þ heaued ane. for þi hwen þe deouel beodeð forð þis beast. beot hit to sullen ⁊ bit ti sawle þeroure. he hut eauer þe teil. ⁊ schaweð forð þe heaued. Ah þu ga al abuten. ⁊ schaw þe ende forð mid al. hu þe teil stingeð. ant swiðe fiih þer frommard ear þu beo iattret.

ÞVS mine leoue sustren i þe wildernesne þer ze gað. in. wið godes fole toward ierusalemes lond. þ is þe riche of heouene. beoð þulliche beastes. þulliche wurmes. ne nat ich na sunne þ ne mei beon ilead oðer to an of ham seouene. oðer to hare streones. Vnsteaðeluest bileaue aȝein godes lare. nis hit te spece of prude inobedience ? Herto falleð sygaldren. false teolunges. lefunge o swefne. o Nore. ⁊ on alle wicchecreftes. Neomunge of husel in eani heaued sunne. oðer ei oper sacrament. nis hit te spece of prude þ ich cleopede presumptio. zef me wat hwuch sunne hit is.

zef me hit nat nawt. þenne is hit zemeles under acci die. þ ich slawðe cleopede. Þe ne warneð oðer of his uuel oðer of his biȝete. Nis hit slaw zemeles oðer attri on de ? teoheði mis. edhalden cwide. fundles oðer lane. oðer þerwið mis fearen. Nis hit spece of zisceunge. ⁊ anes cunnes þeofðe ? Edhalden oðres hure ouer his rihte terme Nis hit strong reaflac hwa se zeldeð hit mei þe is under zisceunge ? zef me zemeð wurse ei þing ileanet. oðer bitaht to witene. þen he wene þe ah hit. Nis hit oðer

triccherie. oðer ȝemeles of slawðe? Alswa is dusi heast oðer folliche ipliht trowðe. longe beon unbischpet. falsliche gan to schrift. oðer to longe abiden. ne teache pater noster godchild ne Credo. þeos ⁊ alle pulliche beoð ilead to slawðe. þ̅ is þe feorðe moder of þe seoue sunnen. þe drone drunch oðer ei þing dude. hwer þurh na child ne schulde beon on hire istreonet. cðer þ̅ istreoneade
(108 : 1 35)

schulde forwurðen. Nis þis strong monslah of galnes se awakenet? Alle sunnen sunderliche bi hare nomeli che nomen ne mahte namon rikenin. Ah i þeo þe ich hadde iseid. alle oðre beoð bilokene. Ant nis ich wene namon þe ne mei understonden him of his sunne no meliche under sum of þe ilke imeane þe beoð her iwri tene. Of þeose seoue beastes ⁊ of hare streones i wilder nesse of anlich lif. is iseid herto. þe alle þe forfearinde fondið to fordonne. þe liun of prude sleað alle þe prude. alle þe beoð hehe ⁊ ouerhohe iheortet. þe attri neddre. þe ontful ⁊ te luðere iponket. Wreaðful. þe Vnicorne. Alswa of þe oðre o rawe. to godd ha beoð isleine. Ah ha libbeð to þe feond. ⁊ beoð alle in his hond. ⁊ seruið him in his curt euch of þe meoster þe him to falleð.

Þe prude beoð his bemeres. draheð wínd inward wið worldlich hereword. ⁊ eft wið idel ȝelp pufteð hit ut ward as þe bemeres doð. makieð noise ⁊ lud dream to schawin hare orhel. ah ȝef ha wel þohten of godes beme res of þe englene bemen þe schulen o fowr half þe world biuore þe grureful dom grisliche blawen. Ariseð deade ariseð cumeð to drihtines dom forte beon idemet. þear na prud bemere ne schal beon iborhen. ȝef ha þohten þis wel. ha walden inohreaðe i þe deofles seruise dimluker bemín. Of þeose bemeres seið Ieremie. Onager solitarius in desiderio anime sue attraxit uentum amoris sui. Of þe wind drahinde in for luue of hereword seið as ich seide.

Summe iuglurs beoð þe ne cunnen seruín of nan soþer gleo bute makien chères. wrenche þe muð mis. schulen wið ehnen. Of þis meoster seruið þe unself ontful i þe deofles curt. to bringen o lahtre hare ondfu le lauerd. ȝef ei seið wel oðer deð wel. ne mahen ha nanes weis lokin þider wið riht ehe of god heorte. ah winkið o þ̅
(109 : 1 32)

half ⁊ bihaldeð o luft ȝef þer is cawt to edwíten. oðer lad liche þiderward schuleð wið eiðer. Hwen ha ihereð þ̅ god. skleatteð þe earen adun. ah þe luft aȝein þ̅ uuel. is eauer wid open. þenne he wrencheð þe muð. hwen he turneð god to uuel. ⁊ ȝef hit is sumdel uuel. þurh mare lastun ge wrencheð hit to wurse. þeos beoð forecwídderes hare ahne prophetes. þeos bodieð biuoren hu þe eateliche deof len schulen ȝet ageasten ham wið hare grennunge. ⁊ hu ha schulen ham seolf grennin ⁊ niuelín ⁊ makien sur semblant for þe muchele angoise i þe pine of helle. Ah for þi ha beoð þe lease to meanen þ̅ ha biuoren hond leorníð hare meoster to makien grím chére.

Þe wreaðful biuore þe feond skirmeð mid cniues. ⁊ is his cnif warpere. ⁊ pleieð mid sweordes. bereð ham bi þe scharp ord up on his tunge. Sweord ⁊ cnif eiðer beoð scharpe ⁊ keoruinde word þ̅ he warpeð from him ⁊ skirmeð toward oðre. ⁊ he bodeð hu þe deoflen schulen pleien wið him mid hare scharpe eawles. skirmi wið him abuten ⁊ dusten ase pilche clut euch toward oðer. ant wið helle sweordes asneasen him þurh ut. þ̅ beoð kene ant eateliche ant keoruinde pínen.

Þe slawe lið ⁊ slepeð o þe deofles bearm as his deore deorling. ⁊ te deouel leið his tutel dun to his eare. ⁊ tuteleð him al þ̅ he wule. for swa hit is sikerliche to hwam se is idel of god. meaðeleð þe feond ȝeorne. ⁊ te idele un derueð luueliche his lare. Idel ⁊ ȝemeles is þes deofles bearnes slep. ah he schal o domesdei grimliche abreiden wið þe dredful dream of þe englene bemen. ⁊ in helle wontreaðe echeliche wakien. Surgite afunt mortui surgite ⁊ uenite ad iudicium saluatoris.

Þe ȝiscere is his eskibah. feareð abuten esken. ⁊ bisi liche stureð him to rukelin to gederes muchele ⁊ monie ruken. blaweð þrín ⁊ blent him seolf. peaðereð
(110 : 1 33)

⁊ makeð þrín figures of augrín. as þes rikeneres doð þe habbeð muche to rikenin. Dis is al þe canges blisse ⁊ te feond bihalt tis gomen ⁊ laheð þ̅ he bersteð. Wel un derstont euch wis mon þ̅ gold ba ⁊ seoluer. ⁊ euch eorðlich ahte. nis bute eorðe ⁊ ahte esken þe ablendeð euch mon þe ham in blaweð. þ̅ is þe bolheð him þurh ham in heor te prude. Ant al þ̅ he rukeleð ⁊ gedereð to gederes. ⁊ et half of ei þing þ̅ nis bute esken mare þen hit neodeð. schal in helle wurðen him tadden ⁊ nedden. ⁊ ba as ysa ie seið. schulen beon of wurmes. his cuertur ⁊ his hwí tel. þe nalde þerwið needful feden ne schruden. Subter te sternetur tinea ⁊ operimentum tuum uermis.

Þe ȝiuere glutun is þe feondes manciple. ah he stikeð heauer iceler oðer icuchene. his heorte is i þe disches. his þoht al i þe neppes. his lif i þe tunne. his sawle i þe crohhe. Kimeð biuoren his lauerd bismuddet ⁊ bismulret. a disch in his an hond. a scale in his oðer. Meaðeleð mis wordes. wígleð as fordrunke mon þe haeuð imunt to fallen. bihalt his greate wombe. ⁊ te deouel lahheð. þeo se preatið þus godd þurh ysaie. Serui mei comedent ⁊ uos esuriētis ⁊ cetera. Míne men schulen eoten ⁊ ow schal eauer hungri. ⁊ ȝe schule beon feode world buten ende.

Quantum glorificauit se ⁊ in deliciis fuit. tantum date illi tormentum ⁊ luctum. In apocalipsi. Contra unum poculum quod miscuit miscete ei duo. ȝef þe kealche cuppe wallinde bres to drinken. ȝeot in his wide þrote þ̅ he swelte inwið. aȝein an ȝef him twa. pullich is godes dom aȝein ȝiuere ⁊ druncwile iþe apocalipse.

Þe lecchurs i þe deofles curt habbeð riht hare ahne no me. for iþes muchele curz þeo me cleopeð lecchurs
(111 : 1 30)

þe habbeð swa forlore scheome þ̅ heom nis nawiht of

scheome. ah secheð hu ha mahen meast vilainie wurch en. Þe lecchur i þe deofles curt bifuleð him seoluen fulli che z his feolahes alle. stinkeð of þ fulðe z paieð wel his lauerd wið þ stinkinde bread betere þen he schulde wið ea ni swote rechles. Hu he stinke to godd. I vitas patrum þe engel hit schawde þe heold his nease þa þer com þe pru de lecchur ridinde. z nawt for þ roteðe lich þ he healp þe hali earmite to biburien. Of alle opre þenne hab beð peos þe fuleste meoster i þe feondes curt. þe swa bi doð ham seoluen. Ant he schal bidon ham. pinin ham wið eche stench ipe put of helle. NV ze habbeð ane dale iherd mine leoue sustren of þe þe (me) cleopeð þe seoue modersunnen. z of hare teames. z of hwucche meosters þes ilke men seruið i þe feondes curt. þe hab beð iwiuet o þeose seouen haggan. z hwi ha beoð swiðe to heatien z to schunien. ze beoð ful feor from ham u re lauerd beo iponcket. ah þ fule bread of þis leaste unþeaw. þ is of leccherie. stinkeð se swiðe feor. for þe feond hit saweð z to blaweð ouer al. þ ich am sumdel ofdred leste hit leape sum chearre in to ower

heortes nease. Stench stiheð uppatt z ze beoð hehe iclumben þer þe wind is muchel of stronge temptatiuns. Vre lauerd zeoue ow strengðe wel to wiðstonden. Sv m weneð þ ha schule strongluckest beon ifon det ipe forme tweofmoneð þ ha bigon anere lif. z i þe oper þrefter. ant hwen ha efter feole zer feleð ham stronge. wundreð hire swiðe. z is ofdred leste godd habbe hire al forwarpen. Nai nawt nis hit swa. I þe forme zeres nis bute balplohe to monie men of ordre. Ah neomeð zeme hu hit feareð bi a for bisne. Hwen a wis mon neowliche hauð wif ilead ham. hi nimeð zeme al softeliche of hire maneres. þah he seo bi (112 : 1 33)

hire þ him mis paieð. he let zet iwurðen. makeð hire fei re chere. z is umben euches weis þ ha him luue in ward liche in hire heorte. Hwen he understont wel þ hire luue is treoweliche toward him ifestnet. þenne mei he siker liche chastien hire openliche of hire unþeawes. þ he ear forber as he ham nawt nuste. Makeð him swiðe sturne. z went te grimme toð to forte fondin zetten zet he mahte hire luue toward him unfestnin. Alest hwen he understont þ ha is al wel ituht. ne for þing þ he deð hire. ne luueð him þe leasse. ah mare z ma re zet ha mei. from deie to deie. þenne schaweð he hi re þ he hire luueð sweteliche. z deð al þ ha wule as þeo þ he wel icnaweð. þenne is al þ wa. iwurðe to wunne. ðef iesu crist ower spus deð als wa bi ow mine leoue sustren. ne þunche ow neauer wunder. I þe frumðe nis þer buten olhnunge forte drachen in luue. Ah Sone se he eauer understont þ he beo wel acointet. he wule forbeoren ow leasse. Efter þe spreoue on ende. þenne is þe muchele ioie. Al o þis ilke wise þa he walde his folc leaden ut of þeowdom. ut of pharaones hond. ut of egypte. he dude for ham al þ ha walde. Mirac les feole z feire. druhede þe reade sea. z makede ham freo wei þurh hire. z þer ha eoden drufot. adreñte pharaon z hare fan alle. Ipe desert forðre þa he hefde ilead ham feor i þe wildernesse. he lette ham polien

wa inoh. hunger. þurst. z muche swinc. z weorren mu chele z monie. On ende he zet ham reste. z alle weole z wunne. al hare heorte wil. z flesches eise z este. Terram fluentem lacte z melle. þus ure lauerd speareð on earst þe zunge z te feble. z draheð ham ut of þis world. swoteliche z wið liste. Sone se he sið ham heardin. he let weorre awakenin z teacheð ham to fehten z weane to polien. On ende efter long swinc. he zeueð ham swote reste. her ich segge i þis world ear ha cu men to heouene. z þuncheð þenne swa god. þe reste

(113 : 1 35)

efter þe swinc. þe muchele eise efter þe muchele meos. eise þuncheð se swote. NV beoð i þe sawter under þe twa temptatiuns þ ich ear seide. þ beoð þe uttre. z te inre þe temeð alle þe opre. fowr dalen todealet þus. Fondunge liht z dearne. Fondunge liht z open lich. Fondunge strong z dearne. fondunge strong z openlich. as is þer understonden. Non timebis a timore nocturno. A sagitta uolante in die. a ne gotio perambulante in tenebris. ab incursu z demonio meridiano. Of fondunge liht z dearne. seið iob þeose wordes. lapides excauant aque. z alliuo ne paulatim terra consumitur. lutle dropen þurlið þe flint þe ofte falleð þron. z lihte dearne fondunges þe me nis war of. falsið a treowe heorte. Of þe lihte openliche bi hwam he seið als wa. lucebit post eum se mita. Nis nawt se muche dute. of strong temptatiun þ is þah dearne. is ee þ Iob meaneð. Insidiati sunt michi z preualuerunt. z non erat qui adiuaret. þ is. Mine fan weitið me wið tricherie z wið treisun. z ha streng den up o me z nes hwa me hulpe. ysaias. Veniet malum super te z nescies ortum eius. Wa schal cumen on þe. z tu ne schalt witen hweonne. Of þe feorðe fondunge þ is strong z openlich. he makeð his man of his fan þe há li iob z seið. Quasi rupto muro z aperta ianua irruerunt super me. þ is ha þreasten in up o me as þah þe wal we re tobroken z te zetten opene. Þe forme z te þridde fon dunge of þeose fowre beoð al meast under þe inre. Þe oper z te feorðe falleð under þe uttre. z beoð al meast fleschliche z eð for þi to felen. Þe opre twa beoð gasteli che of gasteliche unþeawes. z beoð ihud ofte. z dearne hwen ha derueð meast. z beoð muche for þi þe mare to

(114 : 1 31)

dreden. Moni þ ne weneð nawt bret in hire breoste sum liunes hwelp. sum neddre cundel þe forfret þe sawle. of hwucche Osee seið. Alieni comederunt robur eius z ipse nesciuit. þ is. Vnholde forfreten þe strengðe of his sawle z he hit nawt nuste. zet is meast dred of hwen þe sweoke of helle eggeð to a þing þ þuncheð swiðe god mid alle. z is þah sawle bone. z wei to deadlich sunne. Swa he deð as ofte as he ne mei wið open uel cuðen his strengðe. Na he seið ne mei ich nawt makien þeos to sungin þurh ziuernesse. ant ich chulle as þe wreastleare wrenchen hire þiderward as ha meast dreai eð. z warpen hire o þ half z breiden ferliche adun ear

ha least wene. ⁊ eggeð hire toward se muchel abstinen
ce. þ̅ ha is þe unstrengre i godes seruise. ⁊ to leaden se
heard lif. ⁊ pinin swa þ̅ licome. þ̅ te sawle asteorue.
He bihalt an oþer þ̅ he ne mei nanesweis makien
luðere iponcket. se luueful. ⁊ se reowðful is heorte. hire
Ich chulle makien hire he seið to reowðful mid alle.
Ich schal don hire se muchel þ̅ ha schal luuien ahte.
þenchen leasse of godd. ⁊ leosen hire fame. ⁊ put þenne
a pulli þonc in hire softe heorte. Seinte Marie naued
þe mon oðer þe wummon meoseise. ⁊ namon nule
don ham nawt. Me walde me ȝef ich bede. ⁊ swa ich
mahte helpen ham ⁊ don on ham ealmesse. bringeð
hire on to gederin. ⁊ ȝeouen al earst to poure. forðre
to oðer freond. Aleast makien feaste ⁊ wurðen al world
lich. forschuppet of ancre to husewif of halle. Godd
wat swuch feaste makeð sum hore. weneð þ̅ ha wel do.
as dusie ⁊ adotede doð hire to understonden. flatrið hi
re of freolec. herieð ⁊ heoueð up þe ealmesse þ̅ ha deð
hu wide ha is icnawen. ant heo let wel of ⁊ leapeð in orhel.
Sum seið inohreaðe þ̅ ha gedereð hord. swa þet hire
hus mei ⁊ heo ba beon irobbet. Reowðe ouer reowðe. Þus
þe traitre of helle makeð him treowe readesmon. Ne
leue ȝe him neauer. Dauid cleopeð him demonium
meridianum. briht schininde deouel. Ant seinte pawel.

(114 : 1 31)

angelum lucis. þ̅ is. engel of liht. for swuch ofte he mak
eð him ⁊ schaweð him to monie. Na sihðe þ̅ ȝe seod.
ne i swefne ne waken. ne telle ȝe bute dweole. for nis
hit bute his gile. he haued wise men of hali ⁊ of heh
lif ofte swa bichearret. as þe þ̅ he com to i wummon
liche i þe wildernesse. seide ha wes igan o dweole as meos
eise þing efter herbearhe. Ant te oþer hali mon þ̅ he ma
kede iléuen þ̅ he wes engel. bi his feader. þ̅ he wes þe deo
uel. ⁊ makede him to slean his feader. swa ofte þerbiuor
en he heafde iseid him eauer soð. forte biswiken him sari
liche on ende. Alswa of þe hali mon þ̅ he makede cumen
ham forte dealen his feader feh. to neodfule ⁊ to poure. se
longe þ̅ he deadliche sunegede o wummon. ⁊ swa feol in to
unhope. ⁊ deide in heaued sunne. Of mon þe spekeð wið
ow pulliche talen hereð. hu ȝe schulen witen ow wið þes
deofles wiltes. þ̅ he ow ne bichearre. Sum of ow sumchear
re he makede to leuen. þ̅ hit were fikelunge ȝef ha spe
ke feire. ⁊ ȝef ha eadmodliche meande hire neode. ȝef
ha þonckede mon of his goddede. ⁊ wes mare ouerhohe
forte acwenchen chearite. þen rihtwisnesse. Sum he is
umben to makien se swiðe fleon monne froure. þ̅ ha
falleð i deadlich sar. þ̅ is accidie. oðer in to deop þoht
swa þ̅ ha dotie. Sum heateð swa sunne. þ̅ ha haued ouer
hohe of oþre þe falleð. þe schulde wepen for hire. ⁊ sare
dreden for aswuch onont hire seoluen. ⁊ seggen as þe ha
li mon þe seac ⁊ weop ⁊ seide. þa me him talde þe fal of
an of his breðren. Ille hodie. ego cras. weilawei strongli
che wes he itemptet ear he swa feolle. as he feol to dei. ich
mei qð he alswa fallen to marhen.

NV míne leoue sustren monie temptatiuns ich hab
þe ow inempnet under þe seoue sunnen. nawt þah
þe þusent fald þ̅ me is wið itemptet. Ne mahte ich wene
ham namon nomeliche nempnin. Ah i þeo þe beoð iseid.
alle beoð bilokene. lut beoð i þis world oðer nan mid
alle. þ̅ ne beo wið hare sum oðerhwhile itemptet. He

(114 : 1 31)